

市民記者あまライターレポート

このページはボランティアの市民の方が取材・作成しています

想いを込めて

絵手紙

を送ろう

市内の小中学生が東日本大震災で県内に避難している方々に絵手紙を送る活動を続けています。あま市小中学校人権教育研究会が主体となっているこの取組は、震災直後から被災者支援に取り組む甚目寺中学校が、近くに住む避難者に寒中見舞いの手紙を送ったことからはじまりました。翌年度からは市内全域に活動が広がり、愛知県被災者支援センター(名古屋市)を通じて、県内すべての避難家庭に絵手紙が送られるようになりました。



11月中旬、甚目寺中学校1年生が道徳・総合学習の授業で絵手紙制作に取り組みました。制作するに当たっては担任の先生から活動の趣旨を聞いて、絵手紙の完成をイメージします。真新しいハガキを一枚ずつ受け取り、各自が好みの筆記具を用いて描き始めました。スラスラとペンを走らせる子、周りの友達と相談しながら取り組む子、先生から漢字の間違いを直される子、さまざまに進めていきます。

児童・生徒が制作した絵手紙は、毎年12月に開催される「愛知県に避難をされている方に寒中見舞いの絵手紙を送ろう!」の会で避難者代表に手渡されます。毎年楽しみにしてくださっている方も多く、「嬉しくて涙がとめどなく流れました」「沢山の勇気をいただきました」「皆さんが私たちに心を寄せてくれることを嬉しく思っています」などのお礼の言葉を受け取ることもあります。ハガキ1枚の贈り物ではありますが、温もりある伝統行事として受け継がれていくことでしょう。



←集約された
3,882枚の絵手紙
は圧巻です

心の架け橋 →
となる絵手紙を
手渡す代表者



■取材後記■ 5回目の取組みを迎える甚目寺中学校へ取材に出かけました。学校を訪れると「こんにちは!」と、生徒たちから元気な声!それを後方で見守る笑顔の先生!!なんとも清々しい取材の始まりでした。平成29年度は津島市の中学校の参加もあり、18校で東北応援プロジェクトに参加しています。若人たちは東日本大震災を忘れることなく想いを寄せ続けます。
(By市民記者 焼き明太子)